

意見交換先：ハローワーク朝霞

1. 所管する仕事（活動）の内容

・ハローワークの業務は、①求人を行う企業に対する「求人・専門援助部門」、②求職者に対する「職業相談部門」、③雇用保険に関する「雇用保険課」に大きく分けられる。

・ハローワーク朝霞は、朝霞市、新座市、志木市、和光市の4市を管轄している。

2. 所管する仕事（活動）分野についての朝霞市の状況や動向、立ち位置等について

・経済状況によって雇用状況も変わる。6月の経済情勢は「景気は緩やかな回復基調が続いている」中、6月の雇用情勢は「一部厳しさが見られるものの着実に改善が進んでいる」。

・6月の求人倍率は、埼玉県が0.82倍、ハローワーク朝霞は0.52倍である。埼玉県の求人倍率は全国で最下位である。なお、実質的な求人倍率である埼玉県就業地別有効求人倍率は1.00倍である。朝霞管内は有効求職者の減少や求人の増加など改善傾向が見られるものの、他の管内と比較して改善の幅が小さいと言える。

・ハローワーク朝霞管内での全体の有効求人倍率は低いものの、建設、保育、看護、介護などの一部分野においては人手不足の状況が見られる。例えば保育分野は、厚生労働省の意識調査によると、保育士資格保有者の保育士職種の就業を希望する割合は、「希望する」が51.5%にとどまり、「希望しない」が48.5%にもものぼる。「希望しない」理由は、主に労働条件を挙げており、今後の人手不足の解消や職場定着に向けた雇用改善などが課題である。

・ハローワーク朝霞の利用者は毎日200人以上（平成27年7月の1日平均利用者数）。

3. 所管する仕事（活動）分野で、あさかを良くする、あさかを魅力的にするために、朝霞市役所は何かできることがあるのかについて

・ハローワーク朝霞は、現在、市との連携として、市のホームページでのハローワークの案内や求人情報の掲載などを行っている。ハローワークの就労支援の取組をこれまで以上に市の担当者に知ってもらい、様々な場面（母子家庭の母等の就労支援など）での連携を図りたい。

・ハローワークは小中高の学校でのキャリア教育を行っており、市の利用の促進を図りたい。

意見交換先：一般社団法人 朝霞青年会議所

1. 所管する仕事（活動）の内容

- ・青年会議所は、「奉仕」「修練」「友情」の3つの信条を掲げており、地域の中で、まちづくり・ひとづくりの活動を行っている。
- ・朝霞青年会議所は、朝霞市、新座市、志木市、和光市の4市で活動している。
- ・朝霞青年会議所では経営者だけでなく、勤め人や女性もおおり、異業種のメンバーがいる。現在、83人のメンバーが在籍している。会員は20歳以上40歳未満の青年としている。

2. 所管する仕事（活動）分野についての朝霞市の状況や動向、立ち位置等について

- ・朝霞青年会議所では、地域の中で、まちづくり・ひとづくりに繋がる事業という視点で企画を立案している。
- ・今年で5年目を迎えた「子ども大学」の取組は朝霞青年会議所が中心となって立ち上げた事業である。現在、市・市教育委員会・東洋大学・埼玉県教育委員会・朝霞青年会議所の連携で進められている。朝霞市は「教育の朝霞」と言われるほど教育に熱心な地域であり、土壌がある。
- ・今年、朝霞の森を会場として子ども向けに「ランバイク」イベントを開催した。朝霞の近隣だけでなく全国から参加があった。

3. 所管する仕事（活動）分野で、あさかを良くする、あさかを魅力的にするために、朝霞市役所は何かできることがあるのかについて

- ・青年会議所はすべての任期を1年としており、毎年、自前予算で事業を企画している。そのような青年会議所の性格が、継続性を重視する市役所との連携を難しくしている面があるが、青年会議所が企画する事業について、市役所で良いと判断するものがあれば連携での実施や引き継いでの実施を検討してもらいたい。
- ・朝霞青年会議所は広報が苦手である。効果的な広報について、可能な範囲で市役所との連携が出来ると良い。
- ・今回のような市役所との意見交換は歓迎であるが、市内の関係団体を一同に会した集まりやネットワークがあると、朝霞市のまちづくりについてより連携が図れると考える。

意見交換先：埼玉県南西部地域振興センター

1. 所管する仕事（活動）の内容

南西部地域振興センターは埼玉県と南西部地域の各市町、あるいは管内市町同士を結ぶつなぎ役であり、活力と魅力にあふれた地域づくりを進めている。業務は、①市町が行うまちづくりの支援等に関する「地域振興担当」、②NPO、コミュニティ、防犯・交通安全等に関する「県民生活担当」、③中小企業対策、商店街振興等に関する「産業労働担当」の、大きく3つに分けられる。朝霞市、志木市、和光市、新座市、富士見市、ふじみ野市、三芳町の6市1町を管轄している。

2. 所管する仕事（活動）分野についての朝霞市の状況や動向、立ち位置等について

- ・ふるさと創造資金について、昨年度、今年度と朝霞市は活用しているが、管内の他市町と比べると今までの申請事業数が若干少ないので積極的に活用してもらいたい（地域振興担当）。
- ・朝霞市とは、地域の未来を考える政策プロジェクト会議や、川のまるごと再生プロジェクトなどを通して連携を図っている（地域振興担当）。
- ・近隣市ではNPO法人の新設が落ち着く一方で、朝霞市は依然として増加傾向にある。今後、増えていく高齢者がNPO等での活動など地域社会で活躍できる仕掛けづくりが重要である（県民生活担当）。
- ・近隣市では商店街が軒並み減少傾向にある一方で、朝霞市はここ数年に限っては数が増えた。助成率が実質増えた「商店街等施設整備事業」や「黒おび商店街」への認定申請を積極的に検討して欲しい（産業労働担当）。

3. 所管する仕事（活動）分野で、あさかを良くする、あさかを魅力的にするために、朝霞市役所は何かできることがあるのかについて

- ・朝霞市は2路線が乗り入れる地理的な特性から要所として考えられている。これからも朝霞市には南西部地域の代表として活躍してもらいたい。
- ・朝霞市は過去に街バルを1回開催した。婚活等の新しい魅力を採り入れることができれば、ふじみ野市の「福バル」同様に定着するのではないかと。

意見交換先：公益財団法人 朝霞市文化・スポーツ振興公社

1. 所管する仕事（活動）の内容

- ・ 芸術文化・スポーツの振興に関する事業の実施とともに、芸術文化・スポーツの活動の拠点としての公共施設の管理運営に関する事業を実施している。
- ・ 管理する施設は、市民会館、斎場、公園体育施設（総合体育館、陸上競技場・野球場など）である。
- ・ 市民会館では、芸術文化・コミュニティの振興に関する自主事業を展開しており、親子で聴ける本格的なクラシックコンサートや都心に行かずとも身近に楽しめる芸術文化事業などを実施している。そのほか、貸館事業を行っている。
- ・ 斎場は、葬儀の利用に供する施設であり、市民が低廉な料金で利用できる料金設定である。その他、葬儀相談や葬祭セミナーを実施しており、こうしたニーズがあると感じている。
- ・ 公園体育施設では、各施設の貸し出しや自主事業を展開している。総合体育館の幼児体操教室や、陸上競技場で彩夏祭に合わせて開催する大宮アルディージャによる少年サッカー教室など、利用者のニーズに対応した事業を行っている。また、体育協会加盟団体のなど関係団体との連携を図っている。

2. 所管する仕事（活動）分野についての朝霞市の状況や動向、立ち位置等について

- ・ 管理する施設は、年間75万人もの集客力を持つ。それだけ多くの利用者の声をいただける機会があると考え、職員は利用者の声に耳を傾けるよう行動している。そこで得た情報、ニーズを事業展開に反映している。
- ・ 限られた予算の中で効果的な広報・PRを心掛けている。ホームページ、フェイスブック以外にも様々な媒体等を活用している。
- ・ 斎場では、昨今、葬儀の簡素化の流れにより利用が減少傾向にある。
- ・ 施設の老朽化等への対応が課題である。利用者へのより良いサービス提供のための施設改修、更新なども必要であると考え、今後も市との協働によりこれらの課題に対応していきたい。

3. 所管する仕事（活動）分野で、あさかを良くする、あさかを魅力的にするために、朝霞市役所は何かできることがあるのかについて

- ・ 市役所には、市のまちづくりの中心として、関係団体の舵取り役をお願いしたい。
- ・ 関係団体との必要な情報交換の場の設定を今後も行っていたきたい。
- ・ 関係団体の各種事業、イベントなども市の情報発信力をいかしPR、紹介等積極的に行っていたきたい。

以上